

令和4年度第3回認知症施策検討委員会要旨

日時 令和5年 2月16日(木)

13:30~15:30

場所 高梁市役所3階大会議室

1. 開 会

あいさつ 河本委員長

認知症普及啓発ポロシャツを着てきた。このポロシャツにもあるように、認知症と共生できる地域づくりができたらと思う。

2. 協議内容

- 1) 令和4年度認知症総合支援事業等の実績及び評価について
各事業担当から説明

○質問

- ・権利擁護事業について

今年度は昨年度に比べ虐待相談延件数増えているのはコロナの影響か。周知によるものか。

⇒コロナの影響かと言われると一概には言えない。詳細については今後分析予定。

- 2) 本人向け認知症ケアパス見直し案について

本人に見てもらい、意見をいただいたのち修正した

○質問

- ・認知症カフェの茶菓子代に200円程度と書いているが200円を持参すれば不足はないか。

⇒実施している認知症カフェによって金額が変わるが100円の所もある為200円程度と表記している。

作品を制作する場合には作業代として実費を徴収することになっているが、作業は強制ではない。

- ・認知症カフェを予約する際の連絡先がない。

⇒予約をする必要はない。また、連絡先を入れると文字が小さくなってしまいうため省略している。

認知症カフェの問合せ先は地域包括支援センターで統一し記載する。

○意見

- ・病院にこのケアパスがあれば紹介したい。病院受診時に家族にも合わせて紹介できればと思う。

- ・なりわ茶屋は来年度、開催日を第3火曜日に変更する予定。

3) グループワーク

①本人ミーティングについて

1G

- ・認知症カフェにも、認知症当事者の参加はあるが、あくまでも本人は地域住民として参加しており、認知症カフェへの参加と本人ミーティングでは意味が異なる。
- ・自分では「ボケている」と言う人は多いが、人からは言われたくない。
- ・顔なじみの関係の中で徐々に本音を語れるようになるといい。
- ・元気なからだづくり隊や認知症カフェの中で少しずつ本音が話せるようになれば。
- ・本人と家族が同じ場にいると、家族の話は聞けても本人の真意は分かりにくい。
- ・若年性の方であれば場は作りやすいかもしれないが、市内にいるか。
- ・在介の実態把握対象者・ミニデイサービス利用者(チェックリスト対象者、マスカット薬局もの忘れプログラム)から気になる人をピックアップして話を聞いてみるのも良いかも。

2G

- ・認知症カフェに本人と家族の参加があり、本人・家族から話を聞いているが他の参加者もいる中でゆっくり本人の話を聞くことが難しい。
- ・認知症の程度は同じぐらいのほうが良い。
- ・焦らせない、不安にさせない。無理に話す必要はない。
本人同士、家族同士で本人と家族を分ける方がよい。
- ・病院の中の待合で本人同士をセッティングすることは可能かもしれない。
認知症疾患医療センターは遠方から来る方も多いため難しいかもしれないが、かかりつけ医であれば出来るかも。感染対策の問題あり。
- ・訪問してくれるのはよいが、出向くのはちょっとと言われる方もいる。
失敗体験があるとますます出にくくなるため配慮が必要。
- ・本人は周囲に知られたくない。知られて苦になる人、そうでない人がいる。

②令和5年度の取り組み内容について

1G

- ・オレンジガーデニングプロジェクトや広報活動は続けていく事に意味がある。
- ・行政放送の放送予定について、一般の人に広く見てもらう為に放送時間帯等のお知らせに防災ラジオを活用する。
- ・警察の対応事案で、道が分からなくなった独居高齢者が名前や連絡先も分からない場合、家に戻れてもそのままにしておくことはできないが、家の中を見ても緊急連絡先が分からない等、対応に困ったことがある。
⇒服や持ち物に名前が書いてあったり、電話の横に緊急連絡先を書いておく

ことで対応しやすいといった情報を行政放送でも取り上げてはどうか。

- ・普及啓発マグネットステッカーの広報の継続。
- ・家族介護者交流事業に参加しやすくなるように検討する必要がある。

2G

- ・認知症ケアパスの普及啓発について
病院内に配置、薬局での配付（窓口、お薬手帳に入れる等）、町内会に配布をしてはどうか。
講座等で直接見てもらう機会を持ってはどうか。
- ・今年度行方不明事案で消防団が動いたケースなし。
- ・救急医療情報キットは消防で活用しているが中身の内容が更新されていない場合がある。定期的な更新が必要。

3. その他

- ・令和4年度高梁市医療・介護市民公開講座の開催について紹介
- ・認知症疾患医療センター地域連携会議 高梁部会主催 認知症についての普及啓発研修会のお知らせ

4. 閉 会

青木副委員長

今年度全3回開催することができた。認知症の普及啓発は難しいが、一人でも多くの困っている方の支援ができればと思う。